

## 研究・調査報告書

報告書番号 173	担当 独立行政法人酒類総合研究所
<b>題名 (原題/訳)</b> Boosting effect of morphine on alcohol drinking is suppressed not only by naloxone but also by the cannabinoid CB(1) receptor antagonist, SR 141716. モルヒネがアルコール摂取に与える促進効果はナロキソンだけではなくカンナビノイドレセプターB(1)アンタゴニスト SR141716 によっても抑制される	
<b>執筆者</b> Vacca G, Serra S, Brunetti G, Carai MA, Gessa GL, Colombo G	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b> Eur J Pharmacol. 2002 ;445(1-2):55-9.	
<b>キーワード</b> モルヒネ、アルコール、カンナビノイドレセプター	
<b>要旨</b> <p>                     これまでに、低投与量のモルヒネがアルコール摂取量を刺激することが報告されている。またカンナビノイドレセプターアゴニストでも、同様にアルコール摂取量が増加することが報告されている。オピオイドとカンナビノイドによるアルコールへの探索行動における相互効果を明らかにするために、本研究ではカンナビノイド CB(1)レセプターアンタゴニスト SR141716 の低または高投与量のモルヒネへの効果について Sardinian アルコール嗜好ラットにおける自発的なアルコール摂取について検討した。その結果、低投与量のモルヒネ (1mg/kg) はアルコール摂取の特異的増加が観察された。これは血中アルコールレベルの増加と関連しており SR141716 またはナロキソンにより阻害された。高投与量のモルヒネ (10mg/kg) はアルコールの摂食量の減少が観察され、鎮静、低運動性が観察された。モルヒネによるアルコール摂取量の抑制効果はナロキソンによって阻害されるが、SR141716 によっては阻害されない。これらの結果は SR141716 が食欲やモルヒネの正の強化効果と拮抗する効果があることと一致している。さらに、これらの結果はオピオイドの作用とカンナビノイドの作用の間の機能的関連性の存在についての仮説を支持している。                 </p>	